

令和8(2026)年度 審判講習会

- ・ 2026年 競技規則の修改正
- ・ 競技用靴に関する規程
- ・ 広告展示物規程
- ・ 公認審判員制度の改正

埼玉陸上競技協会

令和8年(2026)年3月14日(土)

会場:上尾市文化センター

〔 競技規則修改正のタイミング 〕

●WAの競技規則修改正

(従来) 毎年8月のCouncil(評議会)で決定・11月～実施

(最近) 年3回行われるCouncil(評議会)の都度決定。即時実施が多い
軽微なものや運用に関しては不定期に、Circular[通達(知)]で

●JAAFの競技規則修改正

・2月 全国競技運営責任者会議 ・3月 理事会 ・4月～ 実施

WAとJAAFではルール適用の時期にズレがあることに注意

- 今回の修改正はWAの2025.12.3 Councilまで決定事項を反映
(2025年のWAの修改正:3/5.3/25.7/23.9/9.11/1.12/3 の年6回)

今後、WAの修改正内容によっては、国内でも年度途中で変更等を行う可能性あり

・ **新規種目**

男女 300mH

✓ 国内規格 (2018年度～)

- ・ U20 / U18 ・ハードル8台
- ・ スタート～1台目:45m / ハードル間:35m / 最終ハードル～フィニッシュ:10m

✓ 国際規格 (2026年度～)

- ・ **一般** / U20 / U18 ・ハードル**7**台
- ・ スタート～1台目:**50**m / ハードル間:35m / 最終ハードル～フィニッシュ:**40**m

※ 国民スポーツ大会・U18大会は国際規格で実施

✓ **4×100m男女混合リレー**

- ・ 走順 : ①男子 ~ ②女子 ~ ③男子 ~ ④女子

・ **CR9 [国内] JRWJの位置づけ**

- ▶ 「資格」と「競技会で任にあたる」のは別
- ▶ 競技会で任にあたるためには、主催者からの派遣要請をもとに、陸連がJRWJ有資格者を「派遣」し、派遣された者が当該競技会でJRWJとしての任にあたる
 - ➡ 単に主催者がJRWJ有資格者を競歩審判員として委嘱しても、JRWJとしての任にあたることはできない

・ **関連条文 CR34.4.6**

競歩競技の日本記録については、少なくとも3人のJRWJ(日本陸連競歩審判員)またはWARWJ(WA競歩審判員)として**派遣された競歩審判員**が、競歩中の歩型の判定を行い、日本記録申請書に署名しなければならない

・ CR31.14.4 混成競技の記録の扱い(明確化) ①

- ▶ CR31.14.4 以下の場合を除き、TR17.3に違反したら、その記録は認められない。
- (a) TR17.3.1と17.3.2に該当する場合
 - (b) TR17.3.3と17.3.4が適用される場合で、当該種目の1回目の違反の場合。あるいは、混成競技の個々の種目についてTR39.8.3で認められている不正スタート(1回目の不正スタート後の2回目以降のスタート)の場合。

➡ 混成競技の1回目不正スタート後の2回目以降での他の記録はどう扱うのか

- ・1回目不正スタート以外の者が世界記録(日本記録)「を出した場合はどうなるのか?
- ・1回目不正スタートの者も含め、2回目の単独種目の記録は公認記録か?

・ CR31.14.4 混成競技の記録の扱い(明確化) ②

- ・CR31.14は「競走競技と競歩競技の世界記録」について定めたもの
- ・CR31.14.4
以下の場合を除き、TR17.3に違反したら、
その記録は**世界記録としては認められない**

[注釈]

- ・混成競技で1回目に不正スタートをした競技者が、2回目以降のスタートで、当該個別種目の世界記録を出しても、世界記録としては認められない。
1回目に不正スタートをしていない競技者が世界記録を出した場合は、世界記録として認められる。
- ・尚、国内においては日本記録も同様の扱いとなるが、1回目に不正スタートをした者でも、2回目以降のスタートで出した記録は公認記録として認められる。

・ TR3.3 競技の性別カテゴリー

- ▶ 男性・女性の2つのカテゴリーのみ

・ TR9 競技区分

- ▶ 男子競技 男子のみで実施し、結果も「男子」のみでグルーピング
- ▶ 女子競技 女子のみで実施し、結果も「女子」のみでグルーピング
- ▶ **男女混合競技** 男子と女子が一緒に参加し、結果も「男女一体」でグルーピング
例) 4×400m男女混合リレー
- ▶ **男女同時実施競技** 原則認められない
男女が同時に競技を行うが、結果は「男子」「女子」に分ける
例) 同一時間帯に同じピットで行われるフィールド競技

2026(R8)審判講習会

7

・ TR5.2 競技用靴

・ 競技用靴に関する規程〔2026/1/1 から〕

種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考
トラック種目 フィールド種目 (除:競歩)	スパイクシューズ または ノンスパイクシューズ 20mm	すべての跳躍種目では、前足部中央ソールは踵中央のソールより高くなってはならない。 (競技用靴に関する規程8.3項・8.4項参照 シューズ内部の長さの12%と75%の位置)
競歩種目 (トラック、道路) 道路競走種目	40mm	
クロスカントリー種目	スパイクシューズ: 20mm または ノンスパイクシューズ: 40mm	2026/3/31まで適用 競技用靴に関する規程8.6項により、2026/4/1以降は クロスカントリー種目で着用するノンスパイクシューズの厚さに制限は 設けない。
マウンテンレース・トレイルレース	制限なし	

- 〔追加・国内〕 駅伝競走は道路競走と同様40mmとする
但し、競技会レベルに応じて主催者判断で適用しなくてもよい

2026(R8)審判講習会

8

・ TR8.7 上訴時の**預託金の引き上げ**

[WA]

▶ 100USD相当 (約15.000~16.000円)

[JAAF]

▶ 現行: 10.000円 → **20.000円**

【参考】

- ・WPA (パラ陸連) 200ユーロ相当 (国内規則:20.000円)
- ・水泳 500USD相当 (国内規則:50.000円)
- ・スキー 500スイスフラン相当 (約:100.000円)

・ TR16.5 / 16.8 / 16.9

スタート時に不正スタート等があった際のカード以外での提示

[現行]

▶ リコールや不正スタート等があった際には、**カード(グリーン・赤黒・黄赤)を示す**

[修改正後(追加)]

▶ カードに代わり、スクリーンに表示したり、ライトタワーに表示したり、スピーカーを使ったりなど、**視覚的または聴覚的な代替手段を用いても良い**

• TR17.3〔注釈〕①

令和7年の日本選手権男子400mの事案を受けて、**白線を踏むとはどういうことか、どこに注目して監察すべきか**を明確化

〔 条文 〕

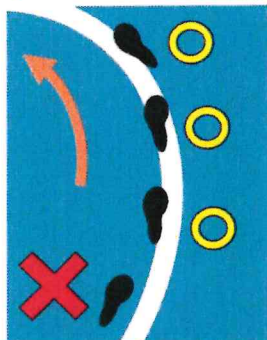
・TR17.3.3レーンで行う（一部をレーンで行う場合も含む）全てのレース（TR17.2.4参照）の曲走路で、レーンの左側の白線や走路の境界を示す内側の縁石または白線に1回（1歩）だけ触れた場合。

・TR17.3.4レーンで行わない（一部をレーンで行わない場合も含む）全てのレース（TR17.2.4参照）の曲走路で、走路の境界を示す縁石または白線を1回（1歩）だけ踏んだり、完全に越えたり（内側に入ったり）した場合。

• TR17.3〔注釈〕②

2022年度修改正資料

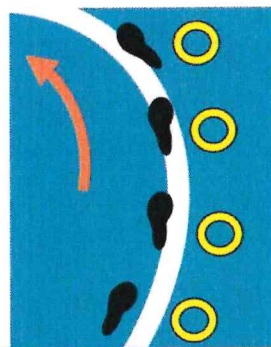
〔1〕レーンを走る種目



ラインを踏み越えるとアウト

〔2〕レーンを使用しない種目（注）

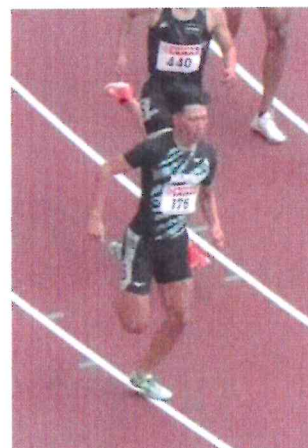
（または一部でもレーンを使用しない種目）



縁石に触れても、踏み越えても

• TR17.3〔注釈〕③

<2025年6月日本選手権 男子400m決勝>

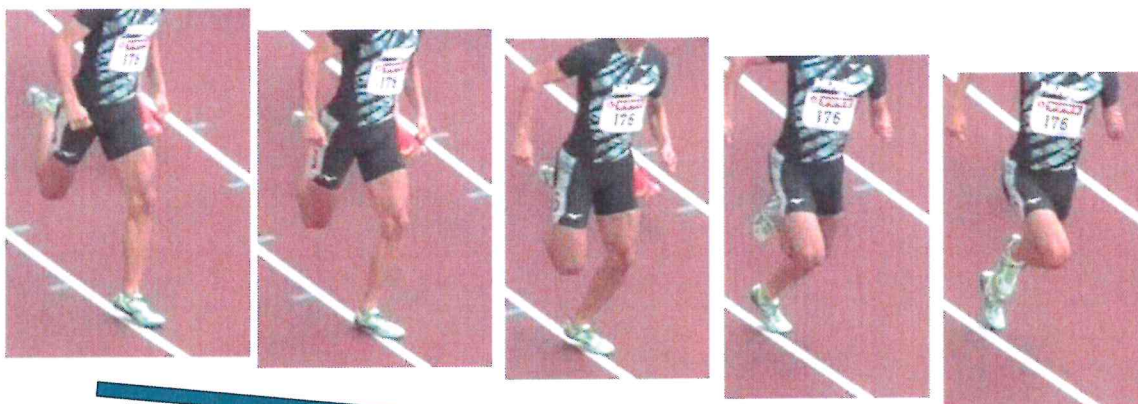


<注意>この写真は、当該種目の抗議・上訴等の手続きとは別に、検証のために競技実施日以降に収集したもの

2026(R8)審判講習会

13

• TR17.3〔注釈〕④



2026(R8)審判講習会

14

• TR17.3〔注釈〕 ⑤

(追加)

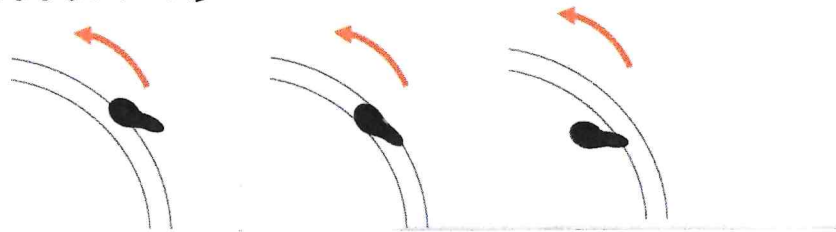
曲走路の内側を踏んだかどうかの判定は、

一歩の中で接地から離地までの間に、

一瞬でも内側のラインに触れていれば違反とは見なさない。

一歩の動き(接地から離地まで)をよく監察する必要がある。

〔違反とならないケース〕



2026(R8)審判講習会

15

• TR17.3〔注釈〕 ⑥

- ▶ ビデオでは「一連の動き」をチェック
- ▶ 主催者の判定ビデオだけでなく、チーム(競技者)提供ビデオも判定材料
- ▶ 審判長はビデオ映像と監察員からの報告の両方を見て判断
- ▶ ビデオがない場合は「監察員の報告」が唯一の判断材料になる
- ▶ 抗議・上訴の説明時に、監察員記録用紙も「エビデンス」として
競技者(チーム)に提示することを前提に、簡潔に、きちんと記載する

2026(R8)審判講習会

16

•TR17.5.2〔国内〕 グループスタートのスタートライン ①

〔現行〕 第1グループと第2グループの走路の間には代用縁石を置き、二つに分ける。
合流地点には他とは異なる彩色の代用縁石を置く

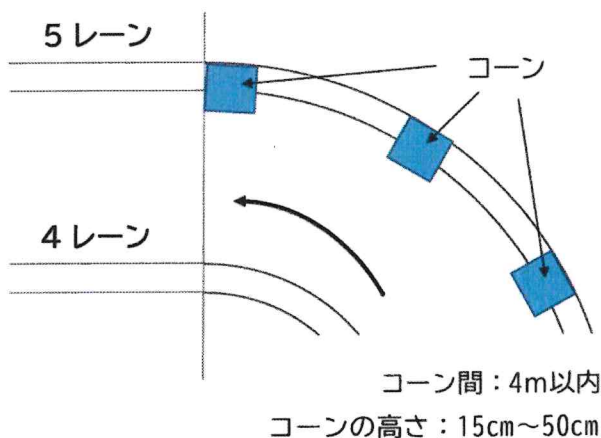
〔追加〕

第2グループのスタートは、第1グループと第2グループの走路の間の
ラインの外端から200mm外方を測り、ライン上に150mm～500mmの高さのコーンを置く。
当該箇所またはトラックの改修および公認満了2032年3月31日までの検定までに適用する。

→検定が終了した競技場から

- ・スタート位置の移動
- ・第1グループと第2グループの間には、代用縁石ではなくコーンを使用

•グループスタートのスタート位置の変更 〔 2026修改正 施設用器具委員会 〕



〔現行〕

グループスタートのスタートラインは、国内では代用縁石を設置することとして、レーンの5レーンの左側のラインから300mmを計測

〔これからは〕

ラインの外端から200mm外方を測ることとして、ライン上にコーンを置く方法に移行していく

•TR17.5.2〔国内〕 グループスタートのスタートライン ②



・4レーンと5レーンの境のライン上 にコーンを置く。

2026(R8)審判講習会

19

•TR20.4.4 300m競走のシードレーン(明確化)

▶ 200m競走・300m競走〔8レーン使用時〕

・1～3位グループ 5・6・7レーン

・4～6位グループ 3・4・8レーン

・7、8位グループ 1・2レーン

⇒300mは200mと同じシードレーンとする

2026(R8)審判講習会

20

•TR20.4 レーンの決定 ①

シードレーンに関して、WAは種目別に
8レーン使用時と、新たに9レーン使用時で
異なる考え方を規定

▶ [8レーン使用時] TR20.4.3~20.4.5

▶ [9レーン使用時] TR20.4.6~20.4.8

•TR20.4.6~20.4.8 9レーン使用時のシードレーン ①

[9レーン競技場で、9名が出場(9レーン使用)する場合]

〔国際〕 ○TR20.4.6 直線種目

グループ	レーン
1~3位	4/5/6
4・5位	3/7
6・7位	2/8
8・9位	1/9

○TR20.4.7 200m

グループ	レーン
1~4位	5/6/7/8
4・5位	3/4/9
6・7位	1/2

○TR20.4.8 400m・スタート時にレーンを使用する800m・4×400mまでのリレー

グループ	レーン
1~3位	5/6/7
4・5位	4/8
6・7位	3/9
8・9位	1/2

・TR20.4.6～20.4.8 9レーン使用時のシードレーン ②

シードレーンの考え方は必須ではないので、
国内競技会（含むWRK・カテゴリー3）では以下の考え方を適用しても可

〔国内〕

・ 8レーン使用時

グループ	レーン
1～4位	3/4/5/6
4・5位	7/8
6・7位	1/2

・ 9レーン使用時

グループ	レーン
1～4位	4/5/6/7
5・6位	8/9
7・8位	2/3
9位・救済	1

・TR22.1、22.3 300mH ①

〔国内基準〕・2018年度～

・対象：U20、U18

・ハードル台数：8台（ハードルの位置は、別途、検定）

〔国際基準〕・2026年度～（WAは2025年～）

・対象：**一般**、U20、U18

・ハードル台数：**7**台（ハードルの位置は400mハードルと同じ）

▶ 両種目ともに公認記録対象（日本記録対象）として扱う

▶ 種目名の表記は「ハードルの高さ_台数」（例：914mm_8台、762mm_7台）

2026年度から、国民スポーツ大会・U18陸上競技大会はWA規格で実施する

•TR22.1、22.3 300mH ②

〔男子〕

距離	1 台目まで	ハードル間	フィニッシュまで
110m	13. 72m	9. 14m	14. 02m
300m*	50m	35m	40m
300m**	45m	35m	10m
400m	45m	35m	40m

〔女子〕

距離	1 台目まで	ハードル間	フィニッシュまで
100m	13. 0m	8. 5m	10. 5m
300m*	50m	35m	40m
300m**	45m	35m	10m
400m	45m	35m	40m

*：国際基準 **：国内基準

•TR22.1、22.3 300mH ③

〔男子〕

距離	一般	U20	U18	中学校
110m	1m067	991mm	914mm	914mm
300m*	914mm	914mm	838mm	—
300m**	—	914mm	838mm	—
400m	914mm	914mm	838mm	—

〔女子〕

距離	一般	U20	U18	中学校
100m	838mm	838mm	762mm	762mm
300m*	762mm	762mm	762mm	—
300m**	—	762mm	762mm	—
400m	762mm	762mm	762mm	—
300m*	—	762mm	762mm	—

*：国際基準 **：国内基準

•TR22.6 ハードル競技の失格事由の明確化 ①

22.6.3 直接間接を問わず、レース中に自分のレーンまたは他のレーンのハードルを倒し、レース中の他の競技者に影響または妨害を与え、他の規則にも違反する行為をした時

22.6.4 直接間接を問わず、レース中に自分のレーンまたは他のレーンのハードルを移動させ、レース中の他の競技者に重大な影響または妨害を与え、他の規則にも違反する行為をした時

- ▶ 単に倒したり、移動させただけでは失格事由にならない
倒したり、移動させたことによって、他の競技者に影響を与えたか
(例:リズムの変化、ストライドが短くなるまたは長くなる、走る方向の変化、ハードルが移動しなければ起こらなかったハードルへの衝突など)

•TR22.6 ハードル競技の失格事由の明確化 ②

東京世界陸上2025男子400mH決勝



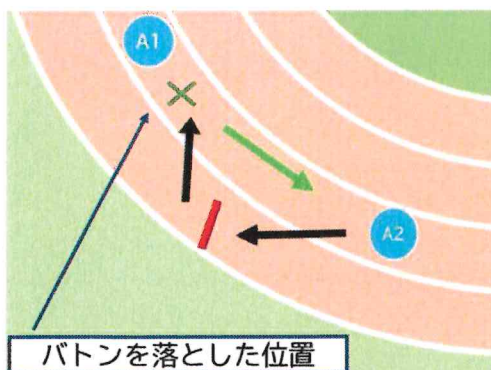
・TR24.6 落としたバトンを拾うためにレーンを離れた後の動き ①

〔現行〕 競技者は距離が短くならないことを条件に、バトンを拾うために自分のレーンから離れてもよい。バトンを落とした時、バトンが横や進行方向(フィニッシュラインの先も含む)に転がり、レーンから離れて拾い上げた後は、競技者はバトンを落とした地点に戻ってレースを再開しなければならない。

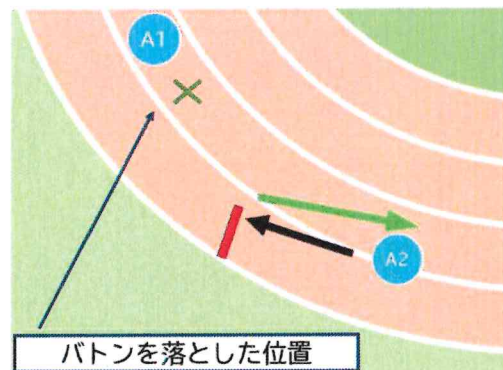
〔修正後〕 **走る距離が短くなること、他の競技者を妨害することがあってはならない。**
フィニッシュラインを通過する際は、当該チームの最終走者がバトンを持っていないなければならない。

→曲走路では自分のレーンから離れた方向が、内側か外側かをチェック

・TR24.6 落としたバトンを拾うためにレーンを離れた後の動き ②

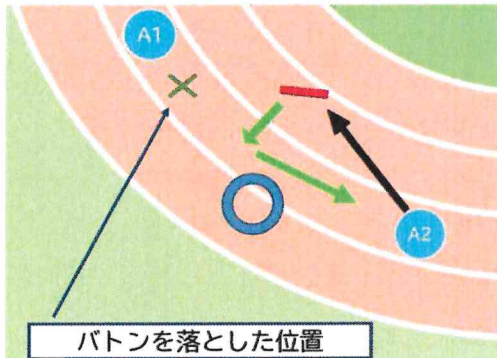


〔従前〕
バトンを落とした位置に戻ってから競技を続行しなければ失格

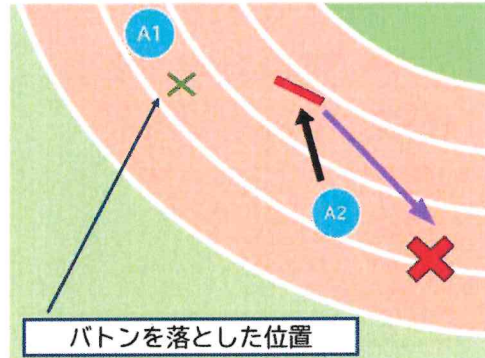


〔修正〕
走る距離が短くならないければ、バトン
を拾った位置から競技を続行して良い

・TR24.6 落としたバトンを拾うためにレーンを離れた後の動き ③



[修正後]
バトンを拾ってから**自分のレーンに戻って競技を続行**すれば問題なし



[修正後] **失格となる走り方**
バトンを拾ってから**内側のレーンを走った後に自分のレーンに戻って競技を続行した場合は失格**

2026(R8)審判講習会

31

・TR24.6 落としたバトンを拾うためにレーンを離れた後の動き ④

[今回の修正]

- ▶ **不可抗力**等によってバトンを落とし、レーンを離れてバトンを拾い競技を再開する際に**走る距離が短くなっていなければ、バトンを持たずに走る部分があっても失格としない**
- ▶ フィニッシュ手前でバトン落とし、前方に転がった場合は、バトンを拾った後にフィニッシュライン手前まで戻ってからレースを再開する必要がある
- ▶ **故意**にバトンを投げたり、落としたりしたら**失格**

2026(R8)審判講習会

32

•TR24.10 リレーの交代要員

〔国際〕

(現行) 最大 4名まで
(修改正後) 最大 2名まで

•TR24.11、24.12男女混合リレーの走順(制定様式変更あり)

4×100m男女混合リレー、4×400m男女混合リレー共に
男子－女子－男子－女子の順

•TR25.14 高さの競技の予選(明確化)

〔現行〕

走高跳と棒高跳の予選では、3回続けて失敗していない競技者は、もし決勝進出者数がTR25.12で規定された人数に達していなければ、TR26.2(試技のパスを含む)に従い、決められた予選通過標準記録の高さの最終試技が終わるまで試技を続ける。決勝進出が決定した競技者は、予選の試技を続けることはできない。

〔修正後〕

走高跳と棒高跳の予選では、3回続けて失敗した競技者を除き、TR26.2(試技のパスを含む)に従って、設定された予選通過標準記録の高さにおける最後の試技が終了するまで競技を続ける。

但し、TR25.12に定める決勝進出者数に達した場合は除く。

決勝進出が決定した競技者は、予選の試技を続けることはできない。

• TR28.1 PVの試技開始の合図のタイミング

(考え方はこれまでと変更なし)

競技者がバーの位置の変更を希望する時は、事前に申告した希望位置でバーがセットされる前に、審判員に申し出る。試技時間のカウントが開始されたら、バーの位置をそれ以上変更することはできない。

(但し、WA解釈として[斜字]部分に追加)

連続試技の場合、審判員は次の試技が始まる前に、バーの位置を変更する意思があるかどうかを競技者に確認する。

• TR29.5 LJ、TJの踏切位置判定ビデオ ①

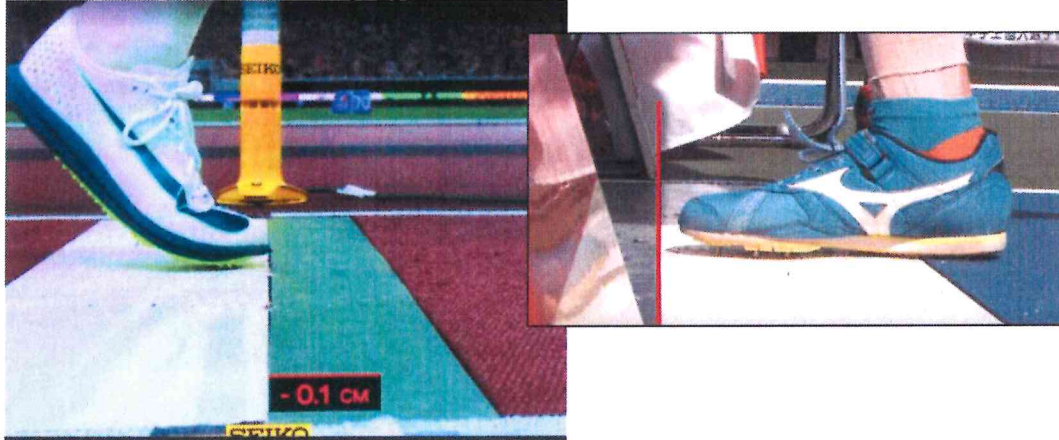
TR30.1.1を適用した判定をするにあたり、審判員を支援するため、ワールドランキングコンペティション定義1.(a)(b)に該当する競技会においては、1秒あたり120フレーム、最低でも4K解像度で撮影できるビデオ技術を使用するものとする。

その他の競技会では、このような技術の使用が強く推奨されるが、難しい場合は代替システムを使用してもよい。

但し、このような技術が利用できない場合は、踏切線のすぐ先に設置した粘土板を使用することができる。

→国内競技会でビデオ判定を行う際に使用するカメラのスペックについては規定を設けないが、きちんと判定できる画質やコマ送り、スロー再生等の性能が備わっていることが望ましい。

• TR29.5 LJ、TJの踏切位置判定ビデオ ②



2026(R8)審判講習会

37

• TR32.4 投てき競技の助力に追加

▶ 以下の行為は助力となる

32.4.5 唾液や汗を用具に吹き付けたり、その他の方法で塗りつけたりすること

32.4.6 やり投の競技者が、やりにチョークまたは類似の物質をつけること

2026(R8)審判講習会

38

競技用靴に関する規程の修改正のポイント (WA:2026.1.1～)

2026(R8)審判講習会

39

競技用靴に関する規程(WA) ①

- 適用対象競技会 ---- 全てのWRk
- 使用可能シューズ ---- 種目別に使用が認められている承認シューズ
承認シューズリスト記載のシューズ
<https://certcheck.worldathletics.org/FullList>
- 承認シューズ ---- 市販シューズ(Available Shoe)
開発用シューズ(Development Shoe)
- カスタマイズ ---- 医療目的の矯正に限定され、WAの事前承認要(承諾通知書)
軽微なものでもWAへの事前通知が必要
- 事前チェック(招集所) ---- 不可
- 事後チェック ---- 疑義があった場合、競技終了後にチェック。必要があれば現物回収、WAへ送付
- 未承認シューズの使用が確認できたら ---- 失格
競技会終了までに承認・未承認の判定ができない場合は失格とせず、記録は非公認とする
- シューズコントロールオフィサー ---- 原則、シューズチェック専門担当者として任命

2026(R8)審判講習会

40

競技用靴に関する規程 ②

種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考
トラック種目 フィールド種目 (競歩を除く)	スパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ 20mm	すべての跳躍種目では、前足部中央のソールは踵中央のソールより高くなってはならない。 (競技用靴に関する規程8.3項および8.4項参照: シューズ内部の長さの12%と75%の位置)
競歩種目 (トラック、道路) 道路競走種目	40mm	
クロスカントリー種目	スパイクシューズ: 20mm または ノン・スパイクシューズ: 40mm	2026年3月31日まで適用。 競技用靴に関する規程8.6項により、2026年4月1日以降はクロスカントリー種目で着用するスパイクシューズ、ノン・スパイクシューズの厚さに制限は設けない。
マウンテンレースとトレイルレース	制限なし	

2026(R8)審判講習会

41

競技用靴に関する規程の国内適用 ①

	WA規程	国内適用
対象競技会	・全てのWRkに適用	・全てのWRkに適用 ・非WRkも原則として適用*
使用可能シューズ	・種目別に使用が認められている承認シューズを使用しなければならない ・承認シューズリスト https://certcheck.worldathletics.org/FullList	
承認シューズ	・市販シューズ(Available Shoe) ・開発用シューズ(Development Shoe)	
カスタマイズ	・医療目的の矯正に限定され、WAの事前承認要 (承諾通知書の携帯必須) ・軽微なものでもWAへの事前通知が必要	

2026(R8)審判講習会

42

競技用靴に関する規程の国内適用 ②

	WA規程	国内適用
事前 チェック (招集所)	・シューズチェックを してはならない	<ul style="list-style-type: none"> ・招集所ではピンチェックのみで可 ・靴底厚の計測は不要 ・主催者判断で事前チェックを行うことは妨げないが、その際のチェックは承認シューズリストとの照合のみ実施 ・この場合、未承認靴であれば指摘し、交換を求める ・未承認靴のまま競技に参加した場合は、失格扱い ・承認靴／未承認靴の判定ができないまま競技に参加させることは可能だが、その情報は関係する他の審判員と共有
未承認 シューズ での競技	<ul style="list-style-type: none"> ・競技会終了までに未承認シューズと判断された場合は失格とする。 ・競技会終了までに判断できない場合は、失格とせず記録は非公認 (UNCTR5.2) とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技会終了までに未承認シューズと判断された場合は失格とする。 ・競技会終了までに判断できない場合は、失格とせず、記録は非公認とする。 ・<結果発表時は「N.M」> ・<記録申請時には当該記録は除外> ・<記録証発行時は「非公認」と明記> ・後に承認シューズと判明したら、結果訂正

2026(R8)審判講習会

43

競技用靴に関する規程の国内適用 ③

	WA規程	国内適用
シューズ コントロール オフィサー	・原則、シューズ チェック専門担当 者として任命する	<ul style="list-style-type: none"> ・任命が必要な競技会 (候補) ✓ WRk1: GGP、ラベルロードレース ✓ WRk2: アジア大会、WAパーミット競技会 ✓ WRk3: 一般およびU20の各日本選手権 全日本実業団、日本インカレ、インターハイ ・その他競技会での任命は主催者判断で可 ・オフィサーと総務員の兼任も可 ・オフィサーを任命しない競技会では、トラック審判長、フィールド審判長がチェック実施

*国内・非WRkへの適用の考え方

- ・当該規程を適用するかどうかは、主催者判断
- ・普及的要素の強い競技会や競技レベルが高くない競技会では、適用することが現実的でないものもあり
- ・上位大会につながる競技会や競技レベルが高い競技会では、記録の公平性をより厳格に担保する観点から適用する

2026(R8)審判講習会

44

競技会における広告および展示物に関する規程

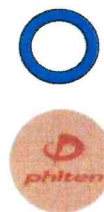
2026(R8)審判講習会

45

広告規程 医療用テープについて

〔国内〕

競技者は、競技規則に反しない限り、**商品名 ロゴの表示のある** 医療用テープまたは、一般的なテープを使用することができる。表示できる**製造会社（商品）**名ロゴは、1枚につき最大の大きさは、10 cm² とする。



繰り返し掲出例 ×
「1ヶ所以外を消すか、使用しない」対応。

2026(R8)審判講習会

46

・中学校のユニフォームについて ①

部活動の地域展開に伴い、中学校の部活動をクラブチームの指導者が始動している。
クラブチームとしては陸連登録をしていないため、所属生徒たちはいずれのチームも学校のユニフォームを着用している。

Q: 学校のユニフォームにクラブチームのワッペンを付けることが可能かどうか
(クラブチームとしては、練習のサポートのみを行っているため、陸連への登録はクラブチームとしては行っていない。)

A:『クラブチームのワッペン』は、スポンサー名／ロゴの扱い
日本陸連の広告規程では、登録が「学校」でも「クラブ」でも
いずれも、製造会社名／ロゴを含め3つ（つまりスポンサー名 ロゴは2つまで）まで表示可能
・具体的なサイズ
※40cm²、最大高 5 cm、最大長 10cm
※上衣、下衣 それぞれ1つ・場所は問わず、上衣、下衣 とも全く同一の表示でなければならない

但し、〔全国中学校体育連盟〕には別に広告・宣伝に関する規程（申し合わせ事項）があります。
中体連が主催や共催される競技会に参加の際は、その規程に従って下さい。

・中学校のユニフォームについて ②

Q: リストバンドなどのアクセサリーに、クラブチームのワッペンを表示できるか

A:「リストバンド」「ヘッドバンド」「ハチマキ」等は、その他のアパレルに分類される。

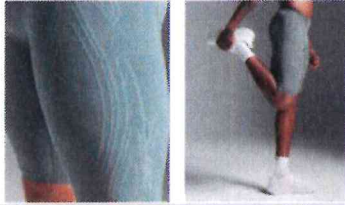
所属団体名／ロゴ または 学校名／ロゴ を 一つ／一ヶ所表示できる

所属団体名／ロゴ ➡ 10cm² まで
学校名／ロゴ ➡ 大きさの制限なし

所属団体名 = 陸連登録をしている団体となるため、学校名で大会に出場する場合は、所属団体としてクラブチームのロゴを表示することはできない

広告規程 資料編 ③

Q: 現在2XUで新しいデザインの商品が販売されている。以前の大きなエックスのデザインが入ったタイツなどは、広告規定上NGとなっているが、新しいデザインでは、薄く「X」の刺繍が入っているタイツもある。これについての対応は…?



A: 透かしだろうと、薄くだろうと、「掲出」が確認できれば、数とサイズで判断。

●レッグウォーマー: 写真の商品は サイズも長さも不可
10cm² 最大高あるいは、長さ 4cm。

●スパッツ: 一か所 場所は問わないが
40cm² 最大高さ 5cm、最大長さ10cm。
「装飾的なデザインマーク」
体側または、裾に 連続または1つ
幅 10cm。アルファベット付記のものは不可



※当該商品(グレー地)は: 複数個掲出、また大きく『X』
(透かし)も。体側に沿って認められる「装飾的なデザイン
マーク」としても認められない。

※当該商品(ブラック地)は 以前の黄金色ラインのもの同
様に、「装飾的なデザインマーク」として認められない。

2026(R8)審判講習会

49

公認審判員制度の改正について

2026(R8)審判講習会

50

公認審判員制度の改正 ①

◆日本陸連の審判員制度の変遷

- ・1948年：公認審判員制度を設ける
- ・2002年：「3種－2種－1種－終身1種」⇒「B級－A級－S級」へ改訂
- ・2021年：C級を追加

◆WAの審判員制度の変遷

- NTO／ITO という形態を経て、現行の4段階へ
- ・NAR
- ・WA Referee Bronze
- ・WA Referee Silver
- ・WA Referee Gold

◆現状の課題

- ・日本陸連とWAの制度が並立・一部重複
- ・WRk競技会ではWAレフェリー配置が必要
- ・国際基準への対応が急務 ⇒ より分かりやすく整理された審判員制度へと集約する必要性が高まる

2026(R8)審判講習会

51

公認審判員制度の改正 ②

JAAFとWAの制度比較

JAAF	WA
<ul style="list-style-type: none"> ・C級：16歳以上 ・B級：18歳以上 ・A級：B級取得後10年以上 ※A級までは加盟団体で審査 ・S級：A級取得後10年以上 55歳以上 ※S級は陸連審査 	<ul style="list-style-type: none"> NAR：16歳以上 e-Learning + 実技3試合 Bronze：NAR3年、19歳以上 e-Learning + Online試験 Silver：Bronze4年、23歳以上 e-Learning + <u>Webinars</u> + 試験 Gold：Silver4年、27歳以上、同上

今後のスケジュール

- 2026年3月以降：理事会へ原案提示、意見聴取
- 2026年夏ごろ
ルールブック・ハンドブック等の修改正
- 2027年4月：新制度開始（予定）

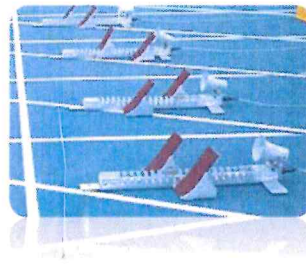
2026(R8)審判講習会

52



以上で終了です。
お疲れさまでした。

令和8(2026)年度も
各競技会での審判協力、
よろしくお願いいたします。



2026(令和8)年度審判委員会

53